

2020年8月3日(月)

## 樋泉実相談役がギャラクシー賞志賀信夫賞を受賞 「ローカル民放局の可能性を提示し続けた」と高い評価

HTB 北海道テレビの樋泉実相談役が、第 57 回ギャラクシー賞で第 11 回志賀信夫賞を受賞し、8 月 3 日(月)に東京で贈賞式が行われました。志賀信夫賞は、ギャラクシー賞を主催する NPO 放送批評懇談会の創設メンバーである故志賀信夫氏の長年にわたる放送批評活動を記念して 2009 年度の第 47 回から新設されたものです。同賞は、番組制作にとどまらず、放送局やプロダクションの経営、業界の新たな仕組みづくりなど幅広い業績を対象に、広く放送文化、放送事業の発展に顕著な貢献をした個人を顕彰することが目的です。樋泉相談役は地方局の経営者としては初の受賞となります。選評では「『地域』を事業設計の基点に置き、ローカル民放局にとっては向かい風となりがちなメディア環境の変化を、知恵と勇気で追い風に変え、ローカル民放事業の可能性を提示し続けた」と高い評価を受けました。贈賞式は新型コロナウイルスの感染拡大の影響で関係者のみで行われ、樋泉相談役はスピーチの中で「30 年近く『デジタル化を味方につけると地域メディアは何ができるのか』と格闘してきました。デジタル化と向き合うことは、放送の縛りを解いて地域を見直す機会でもありました。そこで実感したのは『地域の価値』を我々はまだすくい取りきれていないということ、地域はコンテンツの宝の山だということです。地域メディアには果たすべき役割があり、まだまだ途上、地域社会はそれを待っている。今回の受賞は志賀さんからのメッセージと受け止めています」と述べました。HTB はこれからも、地域社会、地域の生活者と向き合い、地域メディアの役割を果たしてまいります。

\*ギャラクシー賞は放送批評懇談会が日本の放送文化の質的な向上を願い、優秀番組・個人・団体を顕彰するために 1963 年に創設した日本を代表する番組コンクール。テレビ、ラジオ、CM、報道活動の 4 部門からなり、放送批評懇談会正会員の推薦を元に選出する志賀信夫賞、視聴者の参加により選ばれるマイベスト TV 賞が設けられている。

\*\*樋泉実(といずみみのる)相談役

1949 年山梨県生まれ。1972 年に HTB 入社、メディア企画室長、取締役メディア企画センター長、専務取締役デジタル推進担当などを経て、2011 年 6 月代表取締役社長に就任。2014 年 6 月～2016 年 5 月、日本民間放送連盟副会長。2018 年 10 月、取締役相談役、2019 年 6 月相談役。北海道大学産学・地域協働推進機構客員教授、電通総研フェロー。2019 年 12 月旭日中綬章受賞。